

令和2年度 学長表彰対象者

対象者	団体	人数	所属・職名等	選定理由
「次世代型法律実務家教育」ワーキングチーム (代表者 齋藤 彰)	○	13	法学研究科教授ほか12名の教職員	<p>企業活動のグローバル化に伴い、需要が急増するアジア等のビジネス法務に対応できる付加価値の高い法律実務家の養成及びその継続教育が喫緊の社会的課題になっている。本ワーキングチームは、第一に、職業法養成(法科大学院)及び非法律高度法律実務家養成(法学研究科博士課程)において、海外・国内インターンシップ、模擬調停・仲裁等の国際大会等への参加、企業内法務教育を組み合わせ、法律実務の高度化・グローバル化に対応した競争力を有する「次世代型法律実務家」を輩出すべく、学問と実務の協働により、付加価値の高い法律実務家養成教育を展開した。また、内外の調停機関(京都国際調停センター及びCentre for Effective Dispute Resolution)と連携して神戸大学外の実務家に対しても教育を提供し、実務界と大学との連携関係を強化した。第二に、法学研究科博士後期課程において、トップローヤーズ・プログラム(TLP)を運営して一線級の法律実務家を講師として招聘し、これらトップローヤードと法学研究者の協働による現職法曹の継続教育の実績を上げ、理論・実務の双方に通暁した国際的視点を有する法律実務家の養成に貢献した。これら実務家が将来の法科大学院教員となり、さらに次世代の実務家を養成することが期待される。</p> <p>これら教育成果は、経済産業省の報告書(2019年11月)でも注目されるなど、法律実務家の養成及び継続教育に対する新たな社会的ニーズに応える点で、社会に大きく貢献するものである。加えて、既に定評がある法曹養成分野における神戸大学の教育力が、新たな時代を切り拓く展開力をも有していることを示し、本学の声望を高めることにも寄与している。</p> <p>以上の功績を認め、学長表彰に選定した。</p>
忽那 憲治		1	経営学研究科教授	<p>忽那教授は、アントレプレナーシップ・ファイナンスを専門としているが、株式会社科学技術アントレプレナーシップと株式会社イノベーション・アクセラの神戸大学発ベンチャー2社を共同創業し、取締役として神戸大学の科学・技術シーズの事業化及び地方創生に取り組んできた。また、アントレプレナーシップ教育プログラムの開発、推進に関わり、その実績を生かし、神戸大学の教育・社会貢献の戦略的なプラットフォームであるバリュースクール(通称「V.School」)の設置にあたって、学外の賛同者から多額の寄附を獲得するに至り、同スクールの財政基盤強化と知名度向上に貢献した。</p> <p>専門領域における研究成果を広く社会人教育に生かし、それを地域社会に還元し、大学運営に顕著な貢献をしていることは、社会科学分野の教育・研究者として、理想的な研究成果の示し方といえる。</p> <p>以上の功績を認め、学長表彰に選定した。</p>
はやぶさ2 SCI/DCAM3神戸大学チーム (代表者 荒川 政彦)	○	3	理学研究科教授ほか2名の教職員	<p>荒川教授を代表とするグループは、2011年以来、小惑星探査機「はやぶさ2」の小型搭載型衝突装置(SCI:通称インバクター)及び分離カメラ(DCAM3)を担当するサブチームの一員として、その科学検討や開発・性能試験に携わってきた。このSCI/DCAM3サブチームは、JAXAの「はやぶさ2」チームに属しており、JAXAを始めとする複数の大学・機関からメンバーが参集している。その中でも神戸大学は、科学主任研究者の荒川教授を中心として、分離カメラが装備する理学用カメラの開発と性能試験、インバクターによるクレーター形成の科学検討と予備実験を8年近く行い、サブチームの活動を牽引してきた。分離カメラの開発では、白井 慶特命技術員と小川 和律技術員(2015~2019在籍、現在JAXAに出向中)が中心的役割を果たし、インバクターの性能試験や室内予備実験では、岡本 千里理学研究科研究員(2014~2017, 2018在籍、故人)、保井みなみ講師が中心的役割を果たした。「はやぶさ2」によるインバクターの宇宙衝突実験は2019年4月5日に実施され、直径15mの大きなクレーターが作られた。また、分離カメラの理学用カメラはその形成の様子を撮影することに成功した。これらの「はやぶさ2」による宇宙衝突実験の結果は、荒川教授を中心に解析が行われている。特に荒川教授らから、分離カメラの画像解析等から、小惑星リュウグウの表面が非常に流動的であり、クレーターの成長を止めるメカニズムが重力であることを発見した点は重要であり、Scienceに掲載された。この結果は、微小重力下の影響を初めて明らかにしたものであるとともに小惑星の表面年代の精度を上げることに寄与した。</p> <p>以上の功績を認め、学長表彰に選定した。</p>
がんの生物学的特性研究グループ (代表者 的崎 尚)	○	4	医学研究科教授ほか3名の教員	<p>的崎教授を代表とする研究グループは、これまで一貫して、がんの生物学的特性である無制限の増殖能や浸潤・転移能の分子基盤を生化学的・分子生物学的に解明し、その成果を新規のがん治療法の開発に応用する目的で研究を行ってきた。特に、マクロファージの機能制御に重要である細胞間シグナルCD47-SIRPα系を発見し、さらに、がん細胞がCD47-SIRPα系を介してマクロファージなど自然免疫系細胞による免疫監視を回避する機構の解明に至った。また、この基礎的研究成果を発展させ、抗SIRPα抗体を抗腫瘍剤として利用する研究開発を行い複数の特許を取得するとともに、製薬企業と共同して新たながん治療法の確立を成し遂げつつある。これらの研究成果は、基礎医学あるいはがんの研究分野で著名なジャーナルに掲載され国際的に高い評価を得るとともに、新聞やインターネットなどで広く報道され、社会的にも注目されている。このように、的崎教授らの研究グループは、独自の基礎医学研究の成果を、製薬企業との産学連携に積極的に取り組むことで、見事に臨床医学に応用し社会に還元している優れた研究グループであると言える。また、同グループは、科学研究費補助金基盤研究(A)及びAMEDがん研究事業など公的・大型研究費の獲得や、製薬企業との共同研究費、特許収入などの多数の外部資金を獲得している。</p> <p>これらの成果は、神戸大学さらには我が国の医学研究の発展に大きく寄与するものであるとともに、社会的にも、がんに苦しむ多くの患者さんにより良い治療法を提供することが期待される。</p> <p>以上の功績を認め、学長表彰に選定した。</p>
富岳新型コロナウイルス対策プロジェクト飛沫感染チーム (代表者 坪倉 誠)	○	2	システム情報学研究科教授ほか1名の教員	<p>坪倉教授は、システム情報学研究科計算科学専攻教授及び理化学研究所R-CCSの複雑現象統一開放研究チームリーダーとして、HPC(ハイパフォーマンスコンピューティング)環境における計算流体力学の産業応用を中心とした教育研究活動を精力的に行っており、特に自身が研究開発した流体解析ソフトウェア「CUBE」を用いて自動車空気力学分野で大きな成果を上げてきた。</p> <p>この度、新型コロナウイルス感染予防への重要な基礎データ取得として、一般市民へ啓蒙を目的として、坪倉教授は、自らを代表とする「富岳新型コロナウイルス対策プロジェクト飛沫感染チーム」を立ち上げ、稼働間もない世界最速スパコン「富岳」と「CUBE」を駆使して、様々な状況でのウイルス飛沫・エアロゾル飛散予測に関する大規模シミュレーションを実行した。シミュレーションから得られたデータを元にして作成された一連のアニメーションは、テレビを始め数多くのメディアに取り上げられ、コロナ禍で疲弊する社会に対して、飛沫・エアロゾル感染に対する正しい理解とリスクの認知、さらには感染予防の啓蒙に大きく寄与した。同時に、メディア報道を通じて神戸大学の認知度、特に計算科学分野のレベルの高さを社会に周知することとなり、本学の発展に寄与した。</p> <p>以上の功績を認め、学長表彰に選定した。</p>

財務上の貢献が著しい研究者

No.	氏名	所属	職名	備考
1	近藤 昭彦	大学院科学技術イノベーション研究科	教授	※
2	内田 和久	大学院科学技術イノベーション研究科	特命教授	
3	奥村 弘	大学院人文学研究科	教授	※
4	古屋敷 智之	大学院医学研究科	教授	
5	飯島 一誠	大学院医学研究科	教授	
6	森 康子	大学院医学研究科附属感染症センター	教授	※
7	松山 秀人	先端膜工学研究センター	教授	
8	蓮沼 誠久	先端バイオ工学研究センター	教授	
9	小川 渉	大学院医学研究科	教授	
10	高井 義美	大学院医学研究科	特命教授	
11	鈴木 洋	大学院工学研究科	教授	
12	小林 千浩	大学院医学研究科	准教授	
13	内匠 透	大学院医学研究科	教授	
14	永田 真	大学院科学技術イノベーション研究科	教授	
15	青井 貴之	大学院科学技術イノベーション研究科	教授	
16	牧野 淳一郎	大学院理学研究科	教授	
17	野津 寛大	大学院医学研究科	特命教授	
18	井科 隆雅	大学院工学研究科	非常勤講師	
19	丸山 達生	大学院工学研究科	教授	
20	的場 修	先端融合研究環	教授	
21	高橋 裕	大学院医学研究科	非常勤講師	
22	吉田 優	大学院医学研究科	准教授	
23	播磨 尚朝	大学院理学研究科	教授	
24	西田 敬二	先端バイオ工学研究センター	教授	
25	澁谷 啓	大学院工学研究科	教授	
26	林 祥介	大学院理学研究科	教授	
27	金川 基	大学院医学研究科	非常勤講師	
28	上東 貴志	計算社会科学研究センター	教授	
29	神野 伊策	大学院工学研究科	教授	
30	喜多 隆	先端融合研究環	教授	
31	南 康博	大学院医学研究科	教授	
32	白川 利朗	大学院科学技術イノベーション研究科	教授	
33	水谷 清人	大学院医学研究科	特命准教授	
34	竹内 俊文	大学院工学研究科	教授	
35	清野 進	大学院医学研究科	特命教授	
36	津田 明彦	大学院理学研究科	准教授	
37	寺田 努	大学院工学研究科	教授	
38	身内 賢太郎	大学院理学研究科	准教授	
39	大西 洋	大学院理学研究科	教授	
40	杉本 幸裕	大学院農学研究科	教授	
41	的崎 尚	大学院医学研究科	教授	
42	深城 英弘	大学院理学研究科	教授	
43	松井 雅樹	大学院工学研究科	准教授	
44	村上 卓道	大学院医学研究科	教授	
45	鈴木 聡	大学院医学研究科	教授	
46	川口 秀夫	大学院科学技術イノベーション研究科	特命准教授	
47	土佐 幸雄	大学院農学研究科	教授	
48	藤澤 正人	大学院医学研究科	教授	
49	西村 善博	医学部附属病院	教授	
50	三宅 親弘	大学院農学研究科	教授	

No.	氏名	所属	職名	備考
51	田中 勉	大学院工学研究科	准教授	
52	佐々木 良平	医学部附属病院	教授	
53	荒川 政彦	大学院理学研究科	教授	
54	錦織 千佳子	大学院医学研究科	教授	
55	山下 智也	医学部附属病院	准教授	
56	吉本 雅彦	大学院システム情報学研究科	特命教授	
57	杉岡 裕子	海洋底探査センター	教授	
58	木村 建次郎	数理・データサイエンスセンター	教授	
59	児玉 裕三	大学院医学研究科	教授	
60	和氣 弘明	先端融合研究環	特命教授	
61	川口 博	大学院科学技術イノベーション研究科	教授	
62	青木 茂樹	大学院人間発達環境学研究科	教授	
63	小澤 誠一	数理・データサイエンスセンター	教授	
64	齋藤 政彦	数理・データサイエンスセンター	教授	
65	高橋 英幸	分子フォトサイエンス研究センター	助教	
66	西野 孝	大学院工学研究科	教授	
67	菅澤 薫	バイオシグナル総合研究センター	教授	

※の方は財務貢献者の代表として表彰式に出席